

素朴な血に棚田米のおにぎりがよく似合



5月の富士山。日本一から世界一へ



## 続・増穂薪窯通信

# てんやわんや

文・写真 増穂登り窯太田治孝

第2回

美しく器を焼くものは自然の薪である

窯場のある山梨県は、昨年度森林環境税を導入しました。荒廃の進む民有林の間伐材を所有者に代わって山梨県が行う計画です。

初年度は704haの面積の間伐材を予定していたのですが、316haしか実行できませんでした。予定の半分以下です。

原因について山梨県は、「森林所有者の同意を得るのに時間がかかったり、間伐した森林は、整備後20年間は森林からほかに転用禁止する」などの要因で、事業に着手できなかったと説明しています。

山梨県の森林環境税とは、個人から500円、法人からは県



民税均等割額の5%を徴収しています。合計2億2千万円の税収(見込み)のうち、6割が使われなかったのです。他の県はいかがなのでしょう？ 日本全国(一部の県を除く)植林より、まずは間伐の時なのです。

毎年春になると、多くの人を悩ませる花粉症は、国民病といわれています。杉花粉、檜花粉など、地球温暖化で花粉開花期



竹べらで皮を剥く。最初の一步

間が延び、花粉の量が増えていることも一つの原因ともいわれています。これは日本だけでなく、英国、南北アメリカ、南半球のオー

ストラリアにもあります。今後、大気中の二酸化炭素が上昇すると光合成が盛んになり、花粉の生産量も増え、花粉症被害がますます深刻化します。この生態系が理解されているのに、森林整備の予算半分以上が使用されないのは不満が残ります。

山梨県からの予算はもらえないけれど、ボランティアで間伐を実施、その間伐を「やきもの」焼成に使用し、完成した「器」を販売して活動資金にしているグループが窯場の富士川町にあります。

仲間たちと山に入り、間伐材を利用して公園のベンチづくり、椎茸の(ほだ木)づくりなど。各自では、有機無農薬栽培で野菜、棚田米づくりで里山での生活を楽しんでいきます。

その間伐材の一部を薪窯焼成に使用して「やきもの」づくりをしています。間伐しているその手で陶土を捏ね叩いた器たちは、素朴で飾り気がなく、自然のまま美しい作品となっています。

土曜日、日曜日に森林所有者の同意を得た山に入り、山梨県森林環境部森づくり推進課の武居正道さんの指導で、森林の間伐を実施しています。杉、檜、カラ松、など20年で直径10〜15cmになります。

間伐材は、誰でも可能な「皮むき」間伐法です。

まず「皮むき」に必要な3点セットを用意します。

①ノコギリ、②木槌、③竹べらです。間伐する木を決定します。地上10cmの皮

を輪切りにします。

そして、木の直線の7倍以上の長さの皮を剥ぎます。

山梨県では、4月〜9月頃の期間が適しているそうです(この間は木が水を吸い上げているので、皮がきれいに剥けます)。約一年間、そのまま放置します。そして、チェーンソーかノコギリで切り倒します。この間伐がアマチュアでも適しているの



皮剥ぎ後、一年で間伐完了



《ますほ里山暮らしを学ぶ会》。代表の山際さんは山ガール。チェーンソーで間伐材を切る

も適しているの

は、一年乾燥して切り出すので、生木の重量の1/2〜1/3の軽さとなり、山の中からの移動が楽になります。切り出すまでに一年間の時間を必要としますが、プロフェッショナルが林道をつくり、チェーンソーで切り、トラックで運び出すコストを比較すると、誰にでも簡単にできる間伐法であり、全国的に推進したいものです。

この間伐材をエネルギーとして、休眠している薪窯を焚いて器を制作、家庭の食卓で器として使つてはいかがでしょうか。夢のある間伐材利用法だと考えています。間伐材利用の薪窯焼成法ノウハウを共有するために、(仮称)〈みんなの薪窯会議〉開催を提案させていただきます。

「美はいつも自然に還ることを求めている。今日もなお美しく器を焼くものは、自然の薪である。いかなる人為的勢力も薪によって得られる柔らかい味を与えることはできぬ」とは、柳宗悦の陶磁器の美の一節です。

◎参加者を募集します。

仮称〈みんなの薪窯会議〉参加ご希望の方は、編集部までご連絡ください。

TEL 03 (5418) 7735  
TEL 03 (5418) 7736  
FAX 03 (5418) 7736